

## 第9回 金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会 開催記録【概要版】

- ◆「第9回金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会」を12月21日（土）に開催しました。
- ◆県内外から64名の方々にご出席いただき、基調講演や先進事例の取組発表、金沢での取組事例の報告をはじめとして、パネルディスカッションでの意見交換を行いました。

- ・開催日：令和元年12月21日（土）13:30～16:40（受付開始：13:00）
- ・会場：金沢市文化ホール 3階 大会議室
- ・主催：金沢自転車ネットワーク協議会
- ・参加者数：64名（事前申込56名、当日申込8名）
- ・プログラム：

1) 開会	13:30
2) 開会挨拶 ・金沢大学 理工研究域環境デザイン学系 教授 <b>高山 純一</b> （金沢自転車ネットワーク協議会会長） ・金沢市長 <b>山野之義</b>	13:30～13:40
3) 【第一部】基調講演・金沢での取組報告  (1) 基調講演：「健康経営における自転車通勤のすすめ」 講師：株式会社 フジクラ健康社会研究所 <b>浅野 健一郎</b> 氏  (2) 事例報告：「京都市における自転車施策 ～自転車安全教育を中心に～」 講師：京都市 自転車政策推進室 <b>和田 長利</b> 氏  (3) 金沢での取組報告 ・「金沢の自転車施策における10年のあゆみ」 発表者：地球の友・金沢 ・「金沢自転車事故対策研究会の取組」 発表者：金沢河川国道事務所 調査第二課 ・「金沢市内における自転車走行指導帯の整備について」 発表者：石川県 道路整備課 ・「金沢市自転車活用推進計画と新しいまちのり」 発表者：金沢市 歩ける環境推進課  (4) 質疑	13:40～15:20
3) 休憩	15:20～15:30
4) 【第二部】パネルディスカッション  <テーマ> 「自転車の可能性を探る」 ・コーディネーター：北陸大学 名誉教授 <b>三国 千秋</b> （金沢自転車ネットワーク協議会委員） ・パネリスト 金沢市校下婦人会 副会長 <b>安嶋 弘子</b> 石川県サイクリング協会 理事長 <b>岡本 勇</b> 遊学館高校 教頭 <b>嶋田 司</b> 地球の友・金沢 <b>三国 成子</b> 石川県央土木事務所 係長 <b>廣田 光司</b> 石川県警察本部 交通部 <b>平野 洋一</b>	15:30～16:35
5) 閉会 ・国土交通省金沢河川国道事務所 副所長 <b>尾崎 誠</b>	16:35～16:40

▼【第一部】基調講演（株式会社 フジクラ健康社会研究所 浅野 健一郎 代表取締役）



- ◇「健康経営における自転車通勤のすすめ」と題して、経営の視点から自転車通勤の効果などについてご講演いただきました。
- ◇これまで健康経営に取り組む企業は褒められたが、これからは健康経営が当たり前の時代に入ります。自転車通勤は最も効果的な取組の一つであり、入社後、帰社後もやる気が継続するとともに、運動不足の解消、仲間と楽しめるなど、社会的に満たされるという意味でも健康につながると講演いただきました。

▼【第一部】京都市の取組（京都市 自転車政策推進室 和田 長利 室長）



- ◇「京都市における自転車施策 ～自転車安全教育を中心に～」と題して、京都・新自転車計画に基づく取組についてご講演いただきました。
- ◇「京都市自転車安全教育プログラム」を策定し、ライフステージ別の自転車教室の開催、ルール・マナー冊子の配布など、様々な安全教育を実施。令和3年度にサイクルセンターを開設予定であり、施設を活用した自転車ルール・マナー教室の開催を目指していると講演いただきました。

▼【第一部】金沢の取組①（地球の友・金沢 三国 成子氏）



- ◇「金沢の自転車施策における10年のあゆみ」と題して、金沢で自転車の取組が開始した経緯や基本理念などをご発表いただきました。
- ◇国道159号の社会実験をきっかけに、金沢自転車ネットワーク協議会の設置に向けて動き出した。基本理念は自転車中心ではなく、人中心の交通体系を目指している。10年誌では、自転車施策の6つのポイントをまとめており、行政主導ではなく、住民も交えながら取組を進められたことが特徴とご発表いただきました。

▼【第一部】金沢の取組②（国土交通省 金沢河川国道事務所 調査第二課 笹崎 技官）



- ◇「金沢自転車事故対策研究会の取組」と題して、金沢での自転車事故対策についてご発表いただきました。
- ◇研究会はこれまで4回開催しており、現地調査による事故発生状況の確認を経て、具体的な自転車事故対策を検討し、提案した。ハード面だけではなく、ソフト面の対策として、街頭指導マニュアルの作成を検討しており、多様な関係者が正しく街頭指導を実施できるよう配布していきたいとご発表いただきました。

▼【第一部】金沢の取組③（石川県 土木部 道路整備課 田中 課長補佐）



- ◇「金沢市内における自転車走行指導帯の整備について」と題して、県道倉谷土清水線における自転車走行指導帯整備についてご発表いただきました。
- ◇交通事故の発生状況や住民アンケート調査で道路利用の実態を把握し、交通安全を考える会を設置した上で、3つの安全対策を実施した。現在は自転車走行指導帯を段階的に整備しており、街頭指導による交通ルールの周知も行っているとご発表いただきました。

▼【第一部】金沢の取組④（金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課 今川 係長）



- ◇「金沢市自転車活用推進計画と新しいまちのり」と題して、金沢市まちなか自転車利用環境向上計画の見直し状況などについてご発表いただきました。
- ◇計画の基本方針としては、「はしる」「とめる」「まもる」「いかし ひろめる」の4本柱で検討している。また、「まちのり」は来年3月にリニューアルを予定しており、電動アシスト付き自転車や24時間利用可とするなど新しいシステムを導入する予定についてご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション①（地球の友・金沢 三国 成子氏）



◇自転車活用推進法は、交通手段としての自転車ではなく、健康や観光、スポーツなどのあらゆる可能性で自転車を使っていくことが、一番重要な点とご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション②（金沢市校下婦人会 安嶋 弘子 副会長）



◇免許がないため、自転車をよく利用しているが、金沢のまちなかは、クルマ一台がやっと走れるような狭い道路にも自転車通行空間の整備がされている。一方で、自転車は大きな事故につながる乗り物で、ヒヤリとした経験が何度もある。高齢ということもあり、車道を走るの怖いという実態についてもお発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション③（石川県サイクリング協会 岡本 勇 理事長）



◇行政の協力により、サイクリストにとっての環境が向上しているが、自転車は決して安全な乗り物ではなく、テクニックが必要。幼児教育で自転車に慣れ親しんでいくことが重要。金沢城の中を自転車で走れる日をつくるなど、話題になるイベントの開催についてもお提案いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション④（石川県県央土木総合事務所 維持管理課 廣田 光司 係長）



◇地元の方を含めた考える会を設置し、一緒に現地を歩いて問題点を洗い出した。電柱移設の際には、地元から電力会社へ思いを伝えるなど、地域でも主体的に考えていただくようにした。カーブミラーの設置やバス停の移設など、整備に向けた地元の機運が高まったことで、歩道整備にもつなげることができたとお発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション⑤（遊学館高校 嶋田 司 教頭）



◇4月には全校生徒を対象に自転車の走り方について映像を見せながら指導している。学校・警察・地域の方と話し合いをする中で連携が生まれ、一緒に街頭指導をすることで、地元の方の高校生への認識も変わったように思う。一緒に考える機会がないと連携は生まれない。4月に街頭指導の担当で集まる機会を作ってほしいとご提案いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション⑤（石川県警察本部 交通部 交通規制課 平野 洋一 課長補佐）



◇自転車ネットワークを形成する上で、市民の声をどのように伝えれば良いかわかりにくい。金沢自転車ネットワーク協議会は、その受け皿にもなるものであり、この組織の存在意義は非常に高いとご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション（主な質疑内容）



日本自転車文化協会 御子柴 理事：

◇高齢者の免許返納対策がほとんどない状況である。自動車の免許がなく、歩行も難しい方が移動できる手段を考えていく必要もあると思うが、アイデアはあるか。

フジクラ健康社会研究所 浅野 代表取締役：

◇自転車は、バランスが必要な乗り物であり、運動機能を維持するためにも非常に良い。ただ、走行環境が良くないと乗ろうという気にはならないため、改善していくことが必要である。



石川県サイクリング協会 岡本 理事長：

・金沢工業大学では、運動機能改善に向けた研究を行っている。自転車に乗れるかを判断できる人や指針が不足していると思われる。

▼【第二部】パネルディスカッション（主な質疑内容）



堺市自転車まちづくり部 貝塚 参事：

◇金沢で自転車通行空間の整備が進んでいるということは、警察との協議が進んでいるということだと思うが、なぜそれが実現できているのか。

金沢自転車ネットワーク協議会 高山 会長：

◇25年ほど前に、石川県警察が交通事故対策研究会を設置し、その頃から交流の素地はあった。金沢の自転車施策が上手くいっている要因は人である。三国ご夫妻はもちろん、行政にも自転車を愛する人が担当になっていることも多い。意見交換会の場も大事であり、潤滑油になっていると感じる。

